

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 197

2007年

7～8月号

行 事 案 内

7月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 7月8日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 手賀沼のコブハクチョウやオオバンの雛が孵り幼鳥に変わる頃。葦原にはオオヨシキリの囀り、ヨシゴイの飛翔、農耕地にはチュウサギ、アマサギなど、暑さと夏鳥の真っ盛りです。水分補給も忘れずに。

解 散 正午
担 当 桑森、小林(寿)、野口(紀)、北原、佐々木、松田

8月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 8月12日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 暑い盛りですが、コアジサシの涼しげなダイビング・低空飛行のヨシゴイ、葦の先端で囀るオオヨシキリを観察しましょう。暑さ対策として、帽子、水分の補給を忘れずに。

解 散 正午
担 当 小林(寿)、野口(紀)、桑森、北原、佐々木、松田

富士山奥庭・御中道探鳥会

期 日 7月21日(土)～22日(日)
集 合 我孫子駅北口 午前8時
交 通 自家用車分乗。申込の際車提供可能な人はその旨もご連絡下さい。
宿 舎 富士山奥庭荘
Tel 0555 82 2910
費 用 概算 14,000円(宿泊費、交通費、保険代等)
案 内 亜高山帯の野鳥たちに出会いに出かけます。キクイタダキ、カヤクグリ、メボソムシクイ、ルリビタキ、ホシガラス、ウソなどの鳥たちを間近で観察できます。

持 物 観察用具、雨具、防寒具、洗面用具、昼食(途中購入可)
申 込 定員 20名。諏訪哲夫まで
Tel: 04 7188 7137
担 当 諏訪、間野

三番瀬・谷津干潟探鳥会

期 日 8月26日(日) 雨天中止
集 合 我孫子駅改札口 午前8時
交 通 新松戸駅で武蔵野線に乗り換え市川塩浜駅経由で二俣新町駅下車。二俣新道から京成バスに乗り船橋海浜公園下車。切符は各自購入してく

案 内 ださい。
 当日の東京湾に臨む三番瀬の干潮時 9:41 に対し、湾と二本の川で繋がっている谷津干潟は潮の満ち干に 1.5 時間から 2 時間の遅れがあります。両探鳥地における干潮前後の鳥たちの多い時間帯に、渡りはじめた秋のシギチとの出会いを楽しみます。残暑厳しい時期です、帽子はお忘れなく。

持 物 観察用具、帽子、雨具、飲み物、弁当（途中購入も可）

申 込 不要

担 当 榎本、松田

映時間を連絡してください。写真はスライド、デジタル画像のいずれでも構いません。但し、内容は鳥や動物など自然関連のものとし、一人 40 枚以内とします。

デジタル画像ファイルは下記でお願いします。

メディア:スティックメモリー、CDR、フロッピーディスク。
 ファイルは一括コピーできるよう発表者名のついたホルダーに収納。

ファイル名: 番号・題名・撮影場所・日付・拡張子

[例]

01 ムナグロ北新田 070501.jpeg(北新田で 06/05/01 撮影)

番号は映写順番号(昇順、途中の欠番可)、数字は半角 2 桁 1~9 は 01~09 とする。

画像サイズ: 800×600 ピクセル以内。

発表作品は当日持参してください。但し、デジタル画像は開始前にパソコンにインストールしておきますので午後 1 時までには持参、提出してください。

担 当 諏訪、中野
 連絡先 諏訪哲夫 Tel: 04 7188 7137

その他 なお、当日は手賀沼流域フォーラムの参加者も一緒に上映を楽しむことになっています。

映写会終了後恒例の納涼会(別途案内)があります。そちらも是非ご参加下さい。

信州松本 白樺峠タカの渡り探鳥会

期 日 9月22日(土) ~ 23日(日)

集 合 我孫子駅北口 午前 8 時

交 通 今井観光バス

宿 舎 奈川温泉 野麦荘
 Tel: 0263 79 2011

費 用 21,000 円(交通費、宿泊費等)

案 内 標高 1,700mの白樺峠のタカ見の広場は、北東から南東にかけての眺めがよく、目の前の山並みから湧きあがるように現れるタカの姿を楽しめます。

持 物 観察用具、防寒具、昼食(途中購入可)

申 込 定員 20 名 8 月 1 日申込開始
 猪爪敏夫まで
 Tel/Fax: 04 7186 5075

担 当 猪爪、桑森

映 写 会

期 日 7月28日(土) 午後 1 時 30 分

場 所 水の館 1 階ビデオルーム

解 散 午後 4 時(予定)

案 内 会員の撮った写真やビデオを映写して楽しめます。作品を発表する方は 7 月 20 日(金)までに、諏訪宛写真の種類、枚数またはビデオの上

納 涼 会

期 日 7月28日(土) 午後 5 時 30 分

場 所 「庄や」我孫子北口店
 我孫子市我孫子 1-1-16
 Tel 04 7185 3953

会 費 男性 3,000 円、女性 2,000 円

案 内 恒例の納涼会です。映写会後の懇親

暑気払いの会です。ビールを飲んで
楽しいひとときを過ごしましょう。
皆さんふるってご参加下さい。
(本年より場所を変更しました。お間違
いのないようご注意ください)

申 込 定例探鳥会で、または北原まで。
Tel: 04 7183 4683

担 当 北原、染谷

ホタルの夕べ

期 日 8月5日(日) 雨天中止
集 合 東我孫子駅前 午後7時
持 参 懐中電灯、虫除け対策
解 散 午後8時を目安。東我孫子駅前
案 内 恒例の岡発戸・都部でのホタル鑑賞
会です。谷津田は整備されてきて、
水辺や湿地の生物も増えてきてい
ます。去年はヘイケボタルが30頭
観察され、その後50頭以上観察さ
れたと聞いています。今年はそれ以
上の幻想的な光を期待したいと思
います。

申 込 不要
担 当 木村、染谷

年記念館において第4回手賀沼学会大会が
開催されます。我孫子野鳥を守る会ではポス
ターセッションで「手賀沼の水鳥 サギ科の
動向」を展示します。また13時から基調
講演「流域の生きものと共に生きる」原耕造
(JA全農 SR推進事務局長)が行なわれ
ます(手賀沼学会 Tel: 04 7183 6522)

7月幹事会

日 時 7月8日(日) 13:30~16:30
場 所 水の館 3F 研修室
議 題

1. ほーほーどり 198号記載記事について
2. JBFの参加内容の検討と担当について
 - ・手賀沼のカラスさん(紙芝居)
 - ・庭に鳥を呼ぶ(展示方法の検討と担当)
 - ・パネル展示の内容と担当
 - ・定点探鳥会の場所の検討と担当
 - ・船上バードウォッチングについて
 - ・その他新企画
3. 検討事項
 - ・手賀沼流域フォーラムへの参加(内容
と担当の検討)
4. 報告事項
 - ・JBF実行委員会
5. その他(議題を提出する場合は事務局
にご連絡下さい)

手賀沼学会

7月7日(土)10:30~ 中央学院大学 30周

行 事 報 告

4月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2007年4月8日 9:00~12:00
晴れ・無風 気温16

<認めた鳥> カイツブリ、カンムリカイツ
ブリ、カワウ、ダイサギ、チュウサギ、コサ
ギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、
コガモ、オカヨシガモ、キンクロハジロ、ミ

サゴ、キジ、バン、オオバン、タシギ、ユリ
カモメ、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、
ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、タヒバリ、
ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、セッカ、
シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、
オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクド
リ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラ
ス 計41種

<探鳥班> 佐々木隆、間野吉幸、諏訪哲夫、北原建郎、飯島博、村瀬和則、安野昌彦、大久保陸夫、西巻実、松本葉子、松本勝英、川村美智子、川村美恵子、谷山晴男、小口勝久、猪爪敏夫、橋本清、染谷迪夫、常盤孝義、榎本右、天野正臣、天野睦子、片桐邦夫、宮下三禮、石渡成紀、小林寿美子、桑森亮、黒田力、田丸喜昭、田丸メリールイス、武藤康之、大塚利行、大塚雅子、中野久夫、吉田隆行、古出洋子、類地佑子、植田啓介、玉井修一郎、野口紀子、木村稔、西嶋昭生、西嶋みどり、小玉文夫、田中功、西城猛、与那嶺勝繁、鈴木静治、大田暁子、米田崇明 <担当>松田幸保 計 51 名

<カウント班> 飯泉仁、飯泉久美子
調査日時 2007年4月1日 13:50~16:
00、曇り、気温 23、北北東の風

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	3	4	7
カムリカイツブリ	1	1	2
カウ	10	60	70
ダイサギ	2	2	4
コサギ	3	4	7
アオサギ	1	5	6
コブハクチョウ	6	1	7
カルガモ	6	11	17
コガモ	24	37	61
オカヨシガモ	15	0	15
ヒトリガモ	0	53	53
ホシヅメ	0	1	1
バン	1	0	1
オオバン	37	23	60
ユリカモメ	5	16	21
セグロセキレイ	2	26	28
合計	116	244	360

5月手賀沼探鳥会とカウント

5月手賀沼探鳥会は第18回バードウィーク手賀沼探鳥会を兼ねて実施しました
調査日時 5月13日(日)9:00~12:00
曇り、微風、気温 21

<認めた鳥> カイツブリ、カウ、ダイサ

ギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、チョウゲンボウ、キジ、オオバン、タマシギ、コチドリ、タシギ、ユリカモメ、コアジサシ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、オオヨシキリ、エナガ、シジュウカラ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス
計 36 種。番外：アヒル、バリケン、カワラバト

<参加者> 一般市民 20名、山階鳥類研究所 1名、我孫子市鳥の博物館 3名、我孫子野鳥を守る会 27名(大久保陸夫、北原建郎、染谷迪夫、諏訪哲夫、田中功、小玉文夫、中嶋正義、木村稔、類地佑子、野口紀子、宮下三禮、天野正臣、天野睦子、古出洋子、小林寿美子、六角昭男、村瀬和則、吉田隆行、西城猛、島崎純造、石渡成紀、間野吉幸、品田清、桑森亮、武藤康之、瀬藤妙子、佐々木隆)合計 51名

<カウント班> 木村稔、北原建郎、佐々木隆、田中功、染谷迪夫
調査日時 2007年5月8日 9:40~12:
20、晴れ、気温 25、東南東の風、微風

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	13	7	20
カウ	25	66	91
アマサギ	0	1	1
チュウサギ	0	1	1
コサギ	0	3	3
アオサギ	1	1	2
コブハクチョウ	12	2	14
カルガモ	8	5	13
バン	0	1	1
オオバン	4	9	13
ムクドリ	0	18	18
キョウバクシ	0	1	1
チュウシャクシ	0	1	1
ユリカモメ	1	7	8
コアジサシ	2	10	12
合計	66	133	199

フランス人一家飛び入り参加

本邦初公開、フランス人による“我孫子野鳥を守る会探鳥会の感想”

清岡万紀子

気温も低く雨の続いた週でしたが、どうにかお天気にも恵まれた春の一日、久しぶりの探鳥を楽しみました。一週間前から滞在していたフランス人一家4人（父・娘・小学生の孫二人）を引き連れ、小林秀美と総勢6名で大森駅に。突然の飛び入りにも拘わらず、みなさん親切に迎えてくださいました。

日本語のおぼつかないフランス人と怪しいフランス語の私たちでは、鳥の説明などうまくできるはずもないのですが、みなさまのお力添えで日本の探鳥会を満喫してもらうことができました。

ず～っとご無沙汰続きの罰だったのでしょうか、感想文のご指名を受けてしまいました。でも、すっかり逆指名で同行した彼らにも感想文を書いてもらったのです（主訳/小林秀美）をご紹介します。全文では長過ぎるので、適宜編集・意識して・・・。

父 Paul (60代) 娘 Helene (30代) の二人が、まず、この大都市圏東京のただ中に、あのような自然の中で探鳥をできる公園が存在していることにとっても驚いていました。「その公園は、工業地帯のど真ん中にあり、高速道路が横切っているではありませんか!!! (H)」「そのような中に、鳥たちが王でいられる傑出した自然が存在している(P)」と。でもその前に Helene は、「“ベントー”をくりつけたリュックをかついでたどり着いた大森駅で、フランスからやって来た我々“ガイジン”をひるませるに十分な、凄い機材を備えたグループに合流した」と、はじめから驚きの声を上げていたのです。

そして公園では、双眼鏡で鳥をキャッチすることは難しかったようですが、「とらえられない繰返しには嫌気がさすが、狙った鳥を見られた時は、何とも嬉しい!!! (H)」「このような小さな生き物を見つけるのは簡単ではないことが解ったが、それでもとても心地よかった(P)」と、そして「幸せなことに、多くの方々が、鳥たちをしっかりとらえたスコープをのぞくのを許して下さった(P&H)」「鳥が現れたことは彼らの感嘆の声で判った。それぞれの方が、鳥の長所や特徴を褒めそやし、喜び合っている。知識や経験の共有は、私にはとても好ましく、このグループの面白さを感じた (H)」とも。そして10歳の息子 Antonin は「僕は、鳥や自然が大好きです。新しい人々と出会えたり、新しい観察機材で鳥を見ることもできた。カメラ付きの望遠鏡だった」と感嘆しきりでした。ここに帰ってから何かで調べて、イソシギは“Chevalier Guignette”、ダイサギは“Grande Aigrette”だと言っていました。真偽のほどは？

この日は、残念ながら鳥種は多くありませんでしたが、子育てしているカイツブリや何度も魚を捕りにダイビングをするカワセミをじっくり観察することができ、みな、とても喜んでいました。

そして「私は、この鳥愛好家のみなさんから、たくさんのことを学んだと思います。みなさんの優しさやもてなし、可能な限り楽しみを共有しようとして下さったことに対し、それぞれの方に感謝しています。そして、Antonin や Lucile に向けて下さった微笑みや辛抱強さについても、お礼申し上げます(H)」「みなさまが、さらに探鳥を楽しまれることを！そして、次回の訪日のおりにも、またみなさんと探鳥できる機会をもちたい(P)」と、締めくくっています。

みなさまの温かいお心遣いによって、日本旅行の楽しい思い出の頁が増えたことに、私からも心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

【担当幹事報告】

日 時 2007年4月22日

<認めた鳥> カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、キンクロハジロ、オオバン、コチドリ、アオアシシギ、イソシギ、コアジサシ、カワセミ、コゲラ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、計 29 種 番外カワラバト

<参加者> 大久保陸夫、松本勝英、松本葉子、西巻実、山田哲生、染谷迪夫、猪爪敏夫、井上正、岩田孝之、岩田マキエ、吉田隆行、柴本法子、清岡万紀子、小林秀美 会員外 Paul、Helene、Antonin、Lucile (担当幹事) 鈴木静治、諏訪哲夫 計 20 名

筑波山探鳥会

コルリが身体を震わせ声を限りに囀っていた

古出洋子

5月3日(晴れ)我孫子7時集合。7台の車に分乗して約二時間後、山を登り始めた頃、桑森さんが「窓を開けてください。囀りが聞こえますから」と言われた。爽やかな空気とともにウグイスの囀りが聞こえた。中腹の駐車場で軽い準備体操をしてから登り始める。まもなくあちこちから囀りが聞こえ「あれはオオルリ、これはメジロ、キビタキ」と染谷さんの説明。誰かがキビタキをキャッチしたらしく居場所を説明しているが、私はなかなか捉えられない。双眼鏡を目にした途端、飛び去るのを確認。少し上に行くと、集団が何かを捉えた様子。コルリとの事。どここの声に「正面の木の二本目の左側の枝の・・・」と「枝、枝って言わないでください。皆枝です。」と、捉えられない人のあせりの声。私はやっとキャッチ。なんと三角形をかたどった横枝のとても見やすい場所に一羽。後から登って来た人達も捉え皆がしっかり見てもまだ同じ状態。感激。又双眼鏡を目に当てる。「片足での囀りなので、まだきたばかりでしょう。」とのこと。私の双眼鏡では、片足かどうかまでは見えないが十分満足。また登る。キビタキを見たという集団に追いついたが既にいない。まもなくケーブルの終点を横切り少し入ったところでソウシチョウの声を聞く。それから鳥の声も姿も途切れ、私はそれまで一緒だった小林さんを置いてどんどん下っていった。眼下に眺望が開けて来て、そこに会長さんが待っていて案内をしてくれた。また降りると田丸メリールイスさんが山野草図鑑を片手にすみれに見入っており、染谷さんが説明していた。そうだ山野草に目を向けるのも良い。二輪草が一面に咲いていた。

後から降りて来た小林さんにオオルリを見たと聞いて、一緒に行動しなかったことを後悔した。

薬王院(七世紀建立)で昼食。メジロを皆で追跡。そろそろ鳥あわせという時、会長さんが「稜線を見てください。カケスが入って行きます。」と。上空を山の稜線に向かって何羽も何羽も参集していく。誰かが「2時の会議があるから」といったが面白いほど次々と飛んできた。

本日の鳥あわせの結果は42+2種類でしたが、私自身確認できたのは両手いったかしら？いつもの手賀沼探鳥会には望遠鏡で観させて頂いていたのでそれを期待していたのですが、平坦地と山では条件が違うことが判りました。初心者私の頭は一羽入れれば一羽逃げる。「何々の鳥です。」といわれれば「そう」と見るだけで一人では識別できない状態ですが、できるだけ参加回数を増やし鳥に慣れ親しんでゆきたいと思いますので、よろしく御願い致します

【担当幹事報告】

<認めた鳥> チュウサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、トビ、キジ、ムナグロ、コチドリ、キジバト、ツツドリ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ミソサザイ、コルリ、ツグミ、ヤブサメ、ウグイス、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、エナガ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、オオジュリン、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、カケス、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 42 種

番外 ソウシチョウ、コジュケイ

<参加者> 田丸喜昭、田丸メリールイス、谷山晴夫、榎本右、野口隆也、常盤孝義、北原建郎、中野久夫、天野正臣、天野睦子、田中功、鈴木静治、大塚利行、大塚雅子、松本勝英、松本葉子、間野吉幸、吉田隆行、片桐邦夫、小林寿美子、古出洋子、桑森亮、山田哲生、諏訪哲夫（担当幹事）猪爪敏夫、染谷迪夫 参加者 26 名

Enjoy 手賀沼！ 第 18 回 バードウィーク手賀沼探鳥会

平成 18 年 5 月 13 日（日）開催された「2007 Enjoy 手賀沼！」は 5 コーナー、36 の催しが開催され、Enjoy 手賀沼！全体では、11,000 人位参加して大成功でした。山階鳥類研究所、我孫子市鳥の博物館及び当会の 3 者共催で実施した第 18 回バードウィーク手賀沼探鳥会は水の館前から高野山の滝下広場までのふれあい道路と遊歩道でバードウォッチングを行ないました。参加者一般 20 名、当会会員 27 名、鳥博 3 名、山階 1 名の計 51 名。例年のごとく赤、青、黄、緑、水色、ピンクのリボン分けした 6 班に分かれて、手賀沼遊歩道を中心に探鳥をしました。天気もよく、沼からのそよ風をうけた楽しい探鳥会でした。探鳥のあと、参加者は他のイベントも楽しまれたようでした。（当日の認めた鳥などは「5 月手賀沼探鳥会とカウント」をご覧ください）

会員からの便り（ab-birdnet、ab-news から転載しました）

[シメの旅立ち]

今年もシメの旅立ちの季節がやってきました。去年は 4 月 22 日でしたが今年は今日現在（4/26）まだ頑張っています。

ここ数年旅立ちの季節になると数羽のシメが朝餌台にやってきて餌台を巡って追いかけてっこをします。家人の話だと今朝は 8 羽のシメがやってきて餌台が大層賑やかだったようです。

最初の年は仲間が迎えにきたのかと思っていましたがそうではなく山に帰る途中で餌のあるところに寄って行くようです。例年だと仲間が去った後も我が家のシメ子ちゃんが残っていますが明日の朝はどうか楽しみです。

今朝（5/4）からシメが姿を見せなくなりました。どうやらやっと北へ旅立ったようです。

昨年 12 月 5 日に姿を見せてから丁度 5 ヶ月我が家の餌台に通ってきたことになります。

例年より現れたのは早く、旅立ちが遅いという結果になりました。これも暖冬と何か関係があるのでしょうか。今冬は 2 羽のシメが通ってきていたので例年より楽しむことができました。来冬もきっと来てくれると思います。（諏訪哲夫）

19年度定期総会報告

4月8日 アビスタ工芸工作室において19年度定期総会が開催されました。18年度事業報告および決算報告、19年度事業計画および予算について提案説明があり、討議の結果原案どおり可決されました。また、今年度は役員改選の年にあたり、新役員が選出されました。飯泉さんが副会長を退任され、新たに宮下さんが副会長に就任されました。村井さんが会計監査を辞任され後任に中野さんが選出されました。今回選出の役員の任期は2年です。

19年度役員

会 長 間野吉幸
副会長 小玉文夫、宮下三禮
会計監査 大久保陸夫、中野久夫

18年度決算および19年度予算

	(単位 円)	
	18年度決算	19年度予算
収入の部		
会費	310,000	300,000
会行事収入	1,594,850	1,500,000
外部行事収入	40,000	0
受託収入	126,000	126,000
その他収入	25,865	0
前年度繰越金	227,341	241,693
合計	2,324,056	2,167,693
支出の部		
野鳥の部	1,731,160	1,655,000
環境保全の部	4,818	5,000
啓発活動の部	258,801	250,000
庶務の部	74,450	123,000
その他費用	13,134	15,000
次期繰越	241,693	119,693
合計	2,324,056	2,167,693

注：受託収入はピオトープ調査受託収入

出席者

染谷迪夫、榎本右、西巻実、大久保陸夫、北原建郎、吉田隆行、赤尾完、間野吉幸、首藤佑吉、田丸喜昭、木村稔、島崎純造、片桐邦夫、中野久夫、佐々木隆、桑森亮、田中功、猪爪敏夫、松本勝英、鈴木静治、松田幸保、飯島博、川上貢、小林寿美子、宮下三禮、類地佑子、西嶋昭生、諏訪哲夫、小玉文夫、天野睦子、古出洋子、野口紀子、武藤康之計 33名

19年度下期行事予定

10/14(日)	手賀沼定例探鳥会 手賀沼クリーン作戦
11/10(土) 11(日)	ジャパンバードフェスティバル(JBF)
11/18(日)	手賀沼定例探鳥会
11/23(金)	渡良瀬遊水地探鳥会
12/02(日)	手賀沼清掃
12/09(日)	手賀沼定例探鳥会
12/16(日)	芋煮会
12/30(日)	湊沼探鳥会
01/03(火)	銚子・波崎探鳥会
01/13(日)	手賀沼定例探鳥会
01/27(日)	市民手賀沼探鳥会
02/03(日)	井頭公園探鳥会
02/10(日)	手賀沼定例探鳥会
02/23(土) 24(日)	清里・野辺山探鳥会
03/09(日)	手賀沼定例探鳥会
03/16(日)	北本自然公園探鳥会

新入会員紹介

与那嶺勝繁(柏市)
安野昌彦(柏市)
大塚利行、大塚雅子(我孫子市)
森口良三、森口幸子(新潟県南魚沼市)
瀬藤妙子(柏市)
千葉県自然観察指導員協議会(千葉市)

寄 付

鈴木五郎様(鹿児島県出水市) つくし野在
住の会員(匿名希望)よりご寄付を頂戴しま
した。厚く御礼申し上げます。

5月幹事会報告

日 時	5月13日(日)	13:30~17:00
場 所	湖北地区公民館	第3学習室
議 題		
1.	19年度下期行事予定	事務局
2.	19年度役員分担について	事務局
3.	会報197号記載記事について	小玉
4.	対外協力費のについて	小玉
5.	賠償責任保険	小玉

スウェーデンでの探鳥記 2007

田丸喜昭

5月10日(木)

成田を出発し、シベリア北部上空を飛行し、10時間45分で定刻コペンハーゲンに到着。空港内のホテルに投宿。

5月11日(金) ファルステルボ(FALSTERBO)

この文の地名は英語風に読んだカタカナで表現するので、正確な呼び方でないことを注記しておく。

レンタカー会社からヴォルヴォ VOLVO V70 2.4リッター オートマチック ステーションワゴンを引き取る。4年振りの右側通行の運転。ホテルで荷物を積み込み、出発。空港を出て、直ぐにスウェーデン方面への高速道路に入る。

2000年の夏に開通したデンマークとスウェーデンを結ぶ海底トンネル(3km)と世界で一番長い鋼索橋(7.8km)を通り抜ける。通行料は日本円換算で¥5,460。ファルステルボ半島に向かう。この半島には、数多くの鳥が春秋の渡りの途中に立ち寄る名所。半島先端で、スウェーデンではほとんど最南端のナッベン(NABBEN)という海岸に聳え立つ古い灯台に行き、次にヨットの係留地のスカノール港周辺で、海岸沿いの草原や林の中の鳥を探す。ファルステルボ運河(THE FALSTERBO CANAL)沿いの道で、車の前を飛ぶモリバト(WOODPIGEON)を見る。国道を戻り、リッラ ハツマルス ナス(LILLA HAMMARS NAS)の農地で、何羽かの首に白い帯の襟をつけたコウライキジ(PHEASANT)を初めて見た。

このほか、この日見た鳥たちは、ツクシガモ(SHELDUCK)、ミヤコドリ(OYSTERCATCHER)、ソリハシセイタカシギ(AVOCET)、タゲリ(LAPWING)、アカアシシギ(REDSHANK)、シラコバト(COLLARED DOVE)、ヨーロッパアマツバメ(SWIFT)、クロウタドリ(BLACKBIRD)、アオガラ(BLUE TIT)、カササギ(MAGPIE)、ニシコクマルガラス(JACKDAW)、ハシボソガラス(HOODED CROW)(北欧・東欧では、頭部と首、翼が黒く、頸部、背中と腹部は汚れた灰色の二色のものが多い)、イエスズメ(HOUSE SPARROW)、ムネアカヒワ(LINNET)など。(この後、前に出た鳥名は、説明をつける以外は記さない)。

近くのアスロウスのこの日の宿、アングヴァレンス ガルド農園内のホテルに向かう。ここまでの走行距離は、約100キロ。

5月12日(土)

早朝、農場や入口近くの大木の茂る場所や、ハーブ農園の中を歩く。最初の出会いはミヤマガラス(ROOK)とニシコクマルガラス。クロウタドリは、早朝に、屋根の上や、高い木の枝で、ゆっくりとしたフルートのような美声で長くさえずる。シジュウカラ(GREAT TIT)は、姿は日本のものと同じだが、腹部が黄色で、さえずりは、日本の鳥よりも高い金属的な声を出す。アオカワラヒワ(GREENFINCH)は、さえずりと繁殖期のビューーンという声で、カワラヒワとわかるが、体つきは、日本の鳥よりも一回り大きく、やや緑がかっている。

朝食後、再びファルステルボの灯台へ行き、海岸に沿って草地を歩く。まず、ウミアイサ(RED-BREASTED MERGANSER)のつがい、コブハクチョウ(MUTE SWAN)、ホンケワタガモ(EIDER)のつがいや、の群れを見る。

スカノール港の周辺の草原は、繁殖期間中の立ち入りは禁止されている(このような保護区は、この後、各所で見る)。この日見た鳥は、マガモ(MALLARD)、ハシビロガモ(SHOVELER)、キンクロハジロ(TUFTED DUCK)、アオサギ(GREY HERON)、ユリカモメ(BLACK-HEADED GULL)、オオバン(COOT)、アオアシシギ(GREEN SHANK)、セグロカモメ(HERRING GULL)、コアジサシ(LITTLE TERN)、モリヒバリ(WOODLARK)、ショウドウツバメ(SAND MARTIN)、ツバメ(BARN SWALLOW)、ハクセキレイ(WHITE/PIED WAGTAIL)、ヌマヨシキリ(MARSH WARBLER)、ホシムクドリ(STARLING)、スズメ(TREE SPALLOW)などだった。

クリスチャンスタッド(KRISTIANSTAD)へ

昼過ぎに、E6/E22 高速道路にのり北上し、E22 号高速道路で約 100 キロ先のクリスチャンスタッドへ向かう。片側 2 車線の良い高速道路で、スピード制限は 110 キロ。

クリスチャンスタッドの市街地へ入り、駅前大きな教会(1628 年建造)の道一つ隔てたホテルが、私たちの泊まるホテル ヘルティゲンである。ここまで、起点から 265 キロ走行した。

駅の向こう側にあるチボリ公園のヘルジ ア川(HELGE A)を散策する。川や公園の池の周辺にはカワラバト(ROCK DOVE)(ハトの間では少数派)、ノハラツグミ(FIELDFARE)などを見る。

5月13日(日)クリスチャンスタッドの豊かな湿地(KRISTIANSTAD'S VATTENRIKE)

前日歩いた川の上流に向かって歩く。川端の林や藪の中で鳥がさえずるが、声から鳥を判別できない。300mほど行ったところに野鳥観察小屋があり、一人の男性と二人の女性の野鳥観察者がいた。この日は、バードウィークで、スウェーデン全土で、経験を持つバードウォッチャーたちが、一般の人に鳥を見てもらおう行事を行っている一環だとのこと。男性は、私に丁寧に周辺地図で探鳥地の説明をしてくれた。彼は、その周辺でさえずる多くは、スゲヨシキリ(SEDGE WARBLER)とヨーロッパヨシキリ(REED WARBLER)であると教えてくれた。ヨーロッパチュウヒ(MARSH HARRIER)が舞い、タシギ(SNIPE)が高圧線の電線に飛んできてとまった。ここは、カナルフスパンゲン(KANALHUSSPANGEN)という地点だ。

ホテルに戻り、車で、市の南にあるこの周辺では一番大きいハマルション湖(HAMMARSJON)の西岸のアスムス アンガー(ASUMS ANGAR)に向かった。ここは、湖の手前に広がる草原で、チョウゲンボウ(KESTREL)、子連れのハイイロガン(GREYLAG GOOSE)多数、オジロワシ(WHITE-TAILED EAGLE)などを見る。ミサゴ(OSPREY)が低く飛ぶと、タゲリの親が地上から急発進しモッピングをかける。

次は、湖の北東岸にあるエケナッベン(EKENABBEN)に向かう。ここは湖岸の森林地帯だ。行程の半分ほどが水につかった森の中の木道でできた周遊路をあるく。鳥の声は多いが、暗い森林から明るい空を見上げる格好で、種の判定が難しい。

湖中央部東岸にあるハスロフス アンガー(HASLOVS ANGAR)へ移動し、広大な放牧場の中の歩行路を歩く。ハイイロガンが多い。ツメナガキセキレイ(YELLOW WAGTAIL)が近くの岩の上から愛嬌を振りまいてくれた。タゲリも多い。

南へ下って、アーハス市(AHUS)の先の二ヶ所の探鳥地も向かう。途中で、コウノトリ(WHITE

STORK)が車の前を横切る。ここでも道を間違い、私たちの探す第一の地点を見失い、第二の場所に着き、草原の道を歩いた先の探鳥台から草原を見渡す。帰路に、真っ白なカモメが飛んでいるのを見かけた。ニシズグロカモメ(MEDITERRANEAN GULL)で、北欧で見かけることはあるが、きわめて珍しいようだ。

この日見たその他の鳥は、アカトビ(REK KITE)、クロライチョウ(BLACK GROUSE)、タシギ(繁殖期のこの鳥は、オオジシギのように高い電線や杭の上に止まったり、急降下してドラミングをする)、カモメ(COMMON GULL)、カッコウ(CUCKOO)、ニシイワツバメ(HOUSE MARTIN)、ゴジュウカラ(NUTHATCH)など。ホテルに帰り、合計走行距離は373キロ。

5月14日(月)

前日朝一番に行った観察台へ車で向かい、その裏側の遊歩道を歩く。樹木の茂る湿地を周遊するかなり長い距離で、鳥の声を聞きながら進み、広い国道に出て、その両側に広がる沼地が見える。左側が今通ってきたリネルンダンで、右側がイステルナセット。車できたら、この標識は見落とし、通過してしまっただろう。左手の藪の近くの枝でキアオジ(YELLOWHAMMER)が美声で歌っていたので、何枚も写真を撮る。右側の沼地には、多数の鳥がいて、シマアジ(GARGANY)、ハヤブサ(PEREGRINE FALCON)、ハマシギ(DUNLIN)などを見た。

橋を渡り、左方向のカナルフセット(KANALHUSET)への表示があり、川沿いの林の中の道へ入る。モリバトのつがい木々の枝に静かにとまっている。こちらのハクセキレイは、日本のものより顔面の白い部分が大きく、それが首の横まで広がっている。

エーランド(OLAND)へ

E22にのり、北東方向に191キロ走り、本土側のカルマー市で、国道137号線に入り、10キロほどの長い橋を通過して、エーランド島に渡る。ここは高速道路と同様に料金は取られない。この島は、南北が137キロ、東西が16キロだ。

島の西岸沿いを走る国道136号線を10キロほど南下したヴィックルビー(VICKLEBY)にあるこれから二泊するボペンション(BO PENSIONAT)に午後3時ごろ到着。ここまで580キロ。

古い友人のジェフ・プライスが、最近この島に移転し、私たちが訪れる5月15日には、この島での探鳥に同行してくれることになっている。出発前のジェフからの連絡によると、約15万羽のカオジロガン(BARNACLE GEESE)が島に到着し、数千羽の同種が空を舞っているとのこと。すぐに、ジェフに電話し、翌日の予定を決める。

5月15日(火)

早朝ホテルの周辺を歩く。集落内は大きな木が家々を囲むように茂っていたが、外に出ると、牧草地が広がり、所々に藪があった。この朝見た新しい鳥は、カワウ(COMMORANT)、ウタツグミ(SONG THRUSH)、キイロムシクイ(ICTERINE WARBLER)などだった。

ここから20キロ南のクリンタ(KLINTA)集落のジェフの家に9時半に到着すると、奥さんのイレーンに初対面の挨拶をし、直ぐに彼の車に乗り込み探鳥に出発。最初のポイントは、この島の最南端にあるオッテンビー自然保護区(OTTENBY)で、ここもスウェーデンで、探鳥地として有名な場所で、灯台もある。

最初に見つけたのが、樹木にとまるモリフクロウ(TAMNY OWL)だ。海岸に出ると、鳥の種類と数が多く、私が最初に撮った写真はハジロコチドリ(RINGED PLOVER)、次がハマシギ。このハマシギの腹の黒い帯は腹の3/4ほどを占めていて、あたかも腹部全体が黒いように見え、別種かと思った。これまで、タゲリを沢山見てきたが、この羽は日本で見るように紫がかった濃い黒色だが、これは、茶色がかった灰色で、一見して識別ができる。ジェフに聞いたら、多分、これは、子育ての巣に自分の羽を使い、そのため色が違って見え、子育てが終わり、羽が生え変わると同色になるのではないかとの意見だった。

その他見た新しい鳥は、カオジロガン(BARNACLE GOOSE)(日本出発前に、ジェフから聞いた数のこの種はすでにさらに北へ移動していた)、オカヨシガモ(GODWALL)、クロヅル(CRANE)(大多数は、すでに北へ去った)、ミユビシギ(SANDERLING)、キョウジョシギ(TURNSTONE)、オオソリハシシギ(BAR-TAILED GODWIT)、エリマキシギ(RUFF)、アジサシ(COMMON TERN)、ヒ

バリ (SKYLARK)、ハシグロヒタキ (NORTHERN WHEATEAR)、ノビタキ (STONECHAT)、チフチャフ (CHIFFCHAFF)、ムナフヒタキ (SPOTTED FLYCATCHER)、セアカモズ (RED-BACKED SHRIKE)。ズアオトリは、日本で言えばスズメのように、どこにでも多数いる鳥だ。

オッテンビーの後には、東海岸の道路に出て、二ヶ所で鳥を観察し、東海岸と西海岸を結び道路で、花や遺跡をのぞきながら、ジェフの家に帰り、ひとまず私たちの宿に戻る。

この一日は、北欧の鳥に精通しているジェフとイレーン夫妻が親切に案内してくれて、私たち二人だけで歩いた場合には見落としただろう鳥の種を、きわめて正確に把握できたことで、鳥の渡りや習性、エーランド島の自然等々を詳しく説明してくれた。後で考えてみると、現地のエキスパートと一緒に、説明を受けながら、多数の鳥を見ていくと、特定の種を除いて、各種の印象が、自分たちで見つけて判定した鳥と異なり、記憶に残る印象がやや薄い点に気がついた。

さて、夕刻ジェフの家に帰り夕食をご馳走になる。まだ日暮れ前の午後 9 時過ぎに、別れて、宿に戻る。充実した一日だった。ホテルに戻った走行距離は、695 キロ。

(次号に続く お楽しみに)

会員からの便り (続き)

今日 (4/29) は、連休とお天気に誘われて下沼と手賀の丘公園を歩いてきました。手賀沼の滝下広場では猪爪さんと出会い、ヒレンジャク 6 羽を観察、葦原ではオオヨシキリの声が聞こえはじめました。下沼の東側野球場付近ではコブハクチョウの番に雛 4 羽が寄り添っていました。手賀の丘公園ではサシバには出合えませんでした。ビンズイ、クロジがまだ残っていました。あやめ池で諏訪さんと出会い、いつものカワセミにも出会えました。染井入落の葦原ではコブハクチョウがまだ抱卵中です。連休中には雛が孵るのでしょうか。(4/29 桑森亮)

5 月のヒレンジャクを記録すべく滝下広場へ行ったら、あんのじょう居ました。そこへ 3 羽飛んできたので、レンジャクの補充かと思ったらコムクドリでした。すぐに飛び去ってしまいました。(5/1 松田幸保)

[北新田] (中野)

- ・今春のムナグロ、今までの最多は 4 月 23 日の 175 羽で、次第に減ってきました。
- ・キョウジョシギは 4 月 17 日から見られるようになりました。
- ・チュウシャクシギは 4 月 24 日から見られるようになり、25 日は 14 羽、27 日には 19 羽いました。
- ・4 月 26 日にはムナグロの群の中にハマシギが 1 羽きていました。
- ・アマサギは 4 月 25 日からときどき見られるようになりました。
- ・オオヨシキリの鳴き声、4 月 26 日から聞かれるようになりました。まだ姿を見るのはまれです。(5/1 中野久夫)

鳥 だ よ り

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------------|
| 03.09 [岡発戸新田] ヲカ(1) 葦に止まる
首藤佑吉 | 03.17 [布施あけぼの山公園] 7トリ(3)
飯泉仁 |
| 03.17 [布施あけぼの山公園] ヤマガラ(5)
飯泉仁 | 03.17 [布施あけぼの山公園] ヲ(3)
飯泉仁 |

- 03.23 [中峠利根川ゆうゆう公園] 凖(1) 物色飛翔 諏訪哲夫
- 03.23 [中峠利根川ゆうゆう公園] フウガクソホウ(1) 物色飛翔 諏訪哲夫
- 03.23 [北新田] ハブサ(1) 飛翔 中野久夫
- 03.23 [北新田] フドリ(3) 青山水門で採餌 中野久夫
- 03.24 [高野山新田] ヒレンジャク(1) 桜の木の頂きに止まりその後桜の木を移動 吉田隆行
- 03.26 [北新田] 凖(1) 物色飛翔 中野久夫
- 03.26 [北新田] ハイロフウ(1) シ原上を物色飛翔 中野久夫・金成典知
- 03.26 [北新田] フウ(1) シ原上を物色飛翔 中野久夫・金成典知
- 03.27 [高野山新田] ヒレンジャク(4) 柳の花を採餌 松田幸保
- 03.27 [呼塚新田北柏ふるさと公園] ヒレンジャク(4) 柳の花を採餌 松田幸保
- 03.28 [北新田] アンシコ(1) 2号排水路土手で 中野久夫・金成典知
- 04.01 [片山] サバ(1) 片山上空を旋回していた 飯泉仁・久美子
- 04.01 [片山新田地先手賀沼] トビ(1) 沼の湖面の杭に止まっていた 飯泉仁・久美子
- 04.01 [呼塚新田北柏ふるさと公園] アシ(1) 樹上 桑森亮
- 04.06 [呼塚新田北柏ふるさと公園] オドリ(2) 番で遊泳 松田幸保
- 04.08 [つくしが丘5丁目] ヤマガラ(1) 11:40、ツミの止まっていた枝の近くの木に止まって囀り 飯泉仁
- 04.09 [柏の葉4丁目柏の葉公園] イヅメ(2) 11:38、上空を旋回 飯泉仁
- 04.13 [東中新宿2丁目] カウ(1) 18:48 住宅地上空を飛翔 飯泉仁
- 04.14 [酒井根下田の森] ヤマガラ(2) 鳴いて林の中を移動していた 飯泉仁
- 04.15 [岡発戸岡発戸市民の森] セダヒシイ(1) 樹上で移動、囀り 桑森亮
- 04.15 [片山手賀の丘公園] セダヒシイ(1) 囀り 桑森亮
- 04.15 [北新田] フウガク(3) 水張り田で採餌 中野久夫
- 04.21 [片山新田] フドリ(3) 水田で採餌していた 飯泉仁・久美子
- 04.21 [発作] フウガク(7) 防風林のある屋敷に隣接する水田で採餌、眼先が黄色の婚姻色の個体 飯泉仁・久美子
- 04.21 [宮前] イカ(3) 声、飛び去る 志賀鉄雄
- 04.21 [宮前] ハブサ(1) 飛翔 志賀鉄雄
- 04.21 [宮前] セダヒシイ(1) 声 志賀鉄雄
- 04.22 [片山] イカ(1) 声 志賀鉄雄
- 04.22 [片山] カジ(1) 囀り 志賀鉄雄
- 04.22 [片山] ヤマガラ(1) 採餌 志賀鉄雄
- 04.22 [手賀沼下沼] オセキ(1) 葦中より声 志賀鉄雄
- 04.22 [手賀沼下沼] オセキ(1) 声 志賀鉄雄
- 04.22 [柳戸] サバ(1) 斜面林に声 志賀鉄雄
- 04.23 [片山] オセキ(1) 飛翔 志賀鉄雄
- 04.23 [手賀沼上沼] オセキ(1) 声 志賀鉄雄
- 04.24 [片山] ヒ(1) 飛翔 志賀鉄雄
- 04.24 [柳戸] ハカ(1) 林へ 志賀鉄雄
- 04.25 [片山] ヒタキ(1) 囀り 志賀鉄雄
- 04.25 [片山] セダヒシイ(1) 囀り 志賀鉄雄
- 04.25 [柳戸] オセキ(1) 樹上で羽繕い 志賀鉄雄
- 04.29 [岡発戸新田] ヒレンジャク(6) 滝下広場付近で若芽を食べる 桑森亮・猪爪敏夫
- 04.29 [片山手賀の丘公園] カジ(1) 枝から茂みに 桑森亮
- 04.29 [片山] カウ(1) 声、姿 志賀鉄雄
- 04.29 [手賀] ヤマガラ(1) 囀り 志賀鉄雄
- 04.29 [布瀬] ヒタキ(1) 囀り 志賀鉄雄
- 04.29 [布瀬] サバ(1) 樹上に止まる 志賀鉄雄
- 04.30 [泉] フドリ(1) 鳴きながら飛ぶ 志賀鉄雄
- 04.30 [片山] カウ(1) 囀り 志賀鉄雄
- 04.30 [柳戸] ヒタキ(1) 囀り 志賀鉄雄
- 04.30 [布施あけぼの山公園] ヒタキ(1) 樹上で囀り 中野久夫
- 04.30 [布施あけぼの山公園] セダヒシイ(2) 樹上で囀り 中野久夫
- 04.30 [若松] シジュウカ(2) 庭の巣箱に餌を運んでいた 野口幸子

- | | |
|--|---|
| 05.01 [泉] サバ(1) 飛び立ち 志賀鉄雄 | ムガの群れ中 中野久夫 |
| 05.01 [金山] サバ(1) 電柱上より斜面林に 志賀鉄雄 | 05.12 [片山新田地先手賀沼] マ(1) 雄 飯泉仁 |
| 05.02 [泉] 知(2) 青少年自然の家裏の森の低木に 桑森亮 | 05.12 [箕輪新田地先手賀沼] コ(1) 沼の水面を鳴きながら飛翔 飯泉仁 |
| 05.05 [高野山新田滝下公園] ト(1) 上空をカラスに追われて飛翔 飯泉仁・久美子 | 05.13 [泉] ヤ(1) 囀り 志賀鉄雄 |
| 05.06 [泉] 札(1) 青少年自然の家裏の森で囀り 桑森亮 | 05.13 [大島田] ヤ(1) 声 志賀鉄雄 |
| 05.07 [高野山] ア(1) 鳴き声 浅井芝樹 | 05.14 [北新田] セ(1) 水田で採餌 中野久夫 |
| 05.07 [金山] 札(1) 囀り 志賀鉄雄 | 05.15 [手賀] サ(1) 樹上より飛び立ち 志賀鉄雄 |
| 05.07 [手賀沼下沼] コ(3) 飛翔 志賀鉄雄 | 05.16 [北新田] ヒ(1) 帆翔 中野久夫 |
| 05.08 [片山] 材(1) 囀り 志賀鉄雄 | 05.18 [中峠利根川ゆうゆう公園] コ(2) 林原で囀り 中野久夫 |
| 05.08 [布瀬] ク(1) 水田より飛び立ち 志賀鉄雄 | 05.18 [中沼田] フ(2) 水田で採餌 中野久夫 |
| 05.08 [柳戸] ヤ(1) 囀り 志賀鉄雄 | |
| 05.08 [若白毛] サ(1) 声 志賀鉄雄 | |
| 05.08 [岡発戸新田] コ(1) 物色飛翔 首藤佑吉 | |
| 05.09 [柏イトーヨーカ堂柏店] フ(1) 11:35 頃、6階の換気口に幼鳥が止まっていた 飯泉仁 | |
| 05.09 [手賀新田] フ(1) ホバリング 志賀鉄雄 | |
| 05.09 [布瀬] イ(1) 囀り 志賀鉄雄 | |
| 05.09 [布瀬新田] フ(2) 採餌 志賀鉄雄 | |
| 05.09 [若白毛] 札(1) 囀り 志賀鉄雄 | |
| 05.10 [金山] ヤ(1) 囀り 志賀鉄雄 | |
| 05.10 [藤ヶ谷] 札(1) 囀り 志賀鉄雄 | |
| 05.10 [若白毛] フ(1) 畑より飛び立ち 志賀鉄雄 | |
| 05.10 [北新田] ウ(1) 水田で採餌 | |

今回の観察者の総投稿件数

浅井芝樹	2
飯泉久美子	3
飯泉仁	292
飯泉仁・久美子	200
片桐邦夫	16
桑森亮	30
志賀鉄雄	194
首藤佑吉	14
諏訪哲夫	5
中野久夫	101
中野久夫・金成典知	10
西巻実	2
野口幸子	1
平岡考	1
松田幸保	7
吉田隆行	2
総計	880

(諏訪哲夫)

ほーほーどり No197 2007年(7 ~ 8月号)

発行 2007年7月1日
 発行人 我孫子野鳥を守る会 会長 間野吉幸
 編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、宮下三禮
 事務局 染谷迪夫 〒270 1154 我孫子市白山 1-9-4 Tel 04 7182 3972
 振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会
 会費 年会費 2,000円(大学生・高校生 1,000円、中学生以下 500円、家族会員 無料)